

帯広・北斗病院の加藤医師監修

「ゲノム医療」漫画に登場

講談社(東京)の月刊誌「アフタヌーン」で連載している医療漫画「フラジャイル」で、帯広・北斗病院の加藤容崇医師(35)の監修により、遺伝情報を活用する「ゲノム医療」が取り上げられている。「一般の人に最先端医療に興味を持ってもらいたい」と、加藤医師が提案し実現した。遺伝子検査の仕組みやがん治療への活用などを分かりやすく伝えている。(正井晶子)



ゲノム医療は、がんなどの病気の原因となる遺伝子の異常を調べ、それぞれの患者に合った治療法を提供する。多くの患者の遺伝情報を調べることで、診断や治療だけではなく予防などへの活用も期待されるが、一般にはなかなか理解されない分野でもある。

同病院腫瘍医学研究所の加藤医師は「難しいからといって治療を受ける患者にとっては『知らない』では

自身が医療監修した「フラジャイル」のゲノム医療編が掲載された「アフタヌーン」4月号(左)を紹介する加藤医師

「アフタヌーン」連載「フラジャイル」治療への活用紹介

「済まされない」と、医学知識がない人でも興味を持ちやすい漫画で取り上げてもらうことを考えた。「フラジャイル」を愛読していたことから、作品の医療監修を務めていた知人の医師らの紹介で原作者の草水敏さんに相談。草水さんも興味を示したことから連載が決まり、作画担当の恵三朗さん、千歳市出身の3人ですトーリーを組み立てた。「フラジャイル」は2014年から「アフタヌーン」で掲載が始まり、現在も連載中。16年にはテレビドラマ化された。加藤医師が監修したのは今年4月号からの6話分で、病理医の主人公らががん患者の遺伝情報を調べたり、患者家族が遺伝性のがんに向き合う姿が描かれていく。

加藤医師は「最新の医学に沿ったストーリーになっている。遺伝子検査はどのように進められ、どういう治療につながるのか、実際の医療現場について知ってもらいたい」と話している。